

文化財学を学ぶ学生たちが「工芸の未来」を考える場を提供する。

特色ある取り組み

● 広島伝統工芸品の展覧会、

ワークショップを開催(2014年～)

- ・備後藺草が畳になるまでの年間実習。
- ・ひろしま手技すご技再発見プロジェクトの名称で、熊野筆、尾道帆布、大竹鯉のぼり、戸河内剝物など地元工芸品を学生中心に職人・ギャラリーと連携、県庁、市役所の後援を受け、展覧会ワークショップを実施。

● 伝統工芸の価値を発信

- ・学生の実習体験の手記をウェブサイトで発信。今後、書籍を出版予定。

「広島大学文化財学」HP



文学研究科

伊藤奈保子 准教授

(学生への取材も可能です)

成果

★ 伝統工芸品のコラボが誕生

学生のアイデアから、新たな伝統工芸品や、既存の伝統工芸品とのコラボが生まれる。

★ 職人のコミュニティ・学生・一般の工芸への関心

展覧会や一般へのワークショップなどを通じて、職人同士、学生、一般の方々との交流が生まれた。「手仕事」への関心が高まり、新しい伝統工芸への挑戦や連携事業へつながることが期待される。



三次人形の台座に備後藺草



学生発案: PCモニターに仏壇飾りで装飾(左)・宮島彫時計(右上)